産業観光
きりゅう紀行⑲

江戸時代から続く老舗 矢野家当主の部屋を公開

矢野園（矢野本店店舗及び店蔵）

矢野本店は、享保２年（1717）創始者である近江商人の初代矢野久左衛門が近江国蒲生郡日野町から来住し、寛永２年（1749）二代久左衛門が桐生新町二丁目に店舗を構えたことから始まる。

清酒・味噌・醤油の醸造業のほか質商として家業を広げ、明治以降は荒物・薬種・染料・呉服・銘茶部門を扱うようになり、桐生の商業発展に大きく貢献してきた。

店舗は大正５年（1916）に建築（建て替え）され、出桁造で二階正面には格子戸が残り、江戸風の商家構えとなっている。店舗に隣接した二階建て土蔵造の店蔵は明治31年に作られている。この店蔵の後ろに、木造二階建ての建物があり、二階は当主専用の部屋だった。年に二回、決算のために近江から来桐した当主が過ごした部屋で、襖には清水東谷や小室翠雲らの絵が描かれ、調度品も凝った造りで品格のあふれる空間である。矢野園では今年夏から40年ぶりにこの部屋を空け、公開するようになった。一階の「有鄰」醤油や清酒「山星」などの貴重な古看板も見ることができる。

「矢野本店店舗及び店蔵」は平成14年（2002）11月に、古民家再生技術によって、改装され、矢野園、米蔵・お休み処、喫茶有鄰として営業を行っている。矢野蔵群として桐生市に寄贈した「有鄰館」と一体となり、本町一、二丁目のシンボルとして、買い物や建物の見学、写真撮影やスケッチする人など多くの人たちが訪れている。

公開されている矢野家当主の居室

●住　　所／桐生市本町２丁目６－30
●電　　話／ 0277－45－2925
●桐生市指定重要文化財・2003 わがまち風景賞